2．調査地区の位置

大豊町は、高知県東北端四国山地の中央部に位置し、県庁所在地の高知市より約 40 kmの距離にある。高知自動車道の大豊インターは高知県の玄関口である。

3．交通手段

大豊町の移動は主に車である。集落は、標高 200 メートルから 700 メートルという急傾斜地に散在しているため、ＪＲ土讃線利用時なども乗車駅まで車が移動の手段となる。

◆高知市から～高知自動車道高知 I.C～車で約 30 分

◆高知市から国道 32 号を北へ。約 40km。約 1 時間

◆高知市からＪＲ土讃線

・大豊町には土讃線で５か所の駅がある。

・大豊町町役場は大杉駅徒歩３分

・大豊総合ふれあいセンタ（地域包括包括支援センター）は大田口駅徒歩３分

図1　大豊町の交通手段

4．高齢者見守りのための組織体制

高齢者見守りのための組織体制は存在しない。地域住民、民生委員、区長、ボランティアは相談があれば大豊町地域担当職員、大豊町社会福祉協議会、地域包括支援センターなど、それぞれ相談したいところに相談する。この３か所は、「大豊町ふれあいセンター」同一施設の同一フロアーに位置しており各組織は必要があれば連携をとりながら対処しているが、緊急時や重要事項に関しては同時に情報の共有化が図られる。図２は大豊町における見守り活動についての概略である。

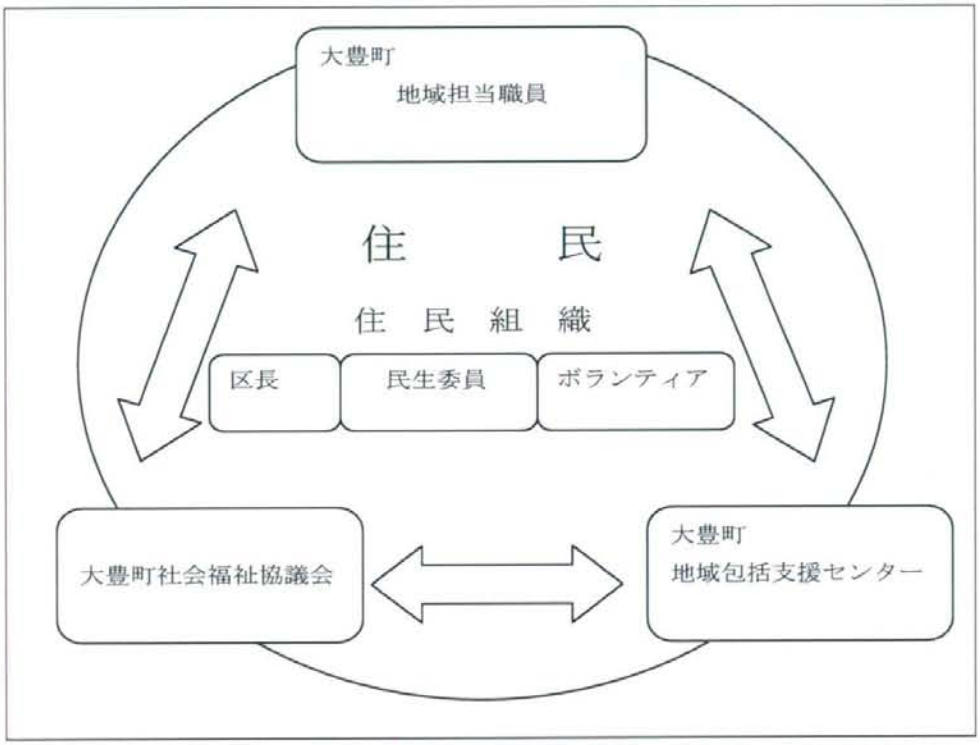

図2　高齢者見守り活動の概略

5．大豊町地域包括支援センターの活動概況

・虐待事例

平成18年度、19年度、ともに0件

・事業内容（表1）

表1　平成19年度相談事業

内 訳	介護相談	23人
	高齢者サービス相談	4人
	在宅福祉相談	6人
	施設入所相談	9人
	医療相談	2人
	介護用品	9人
	福祉用具	5人
	住宅改修	12人
	介護保険	64人
	保健事業	4人
	苦情相談	2人
	権利擁護	0人
	虐待	0人
	介護予防事業(運動)	13人
	介護予防事業(栄養)	1人
	その他	54人
相 談 実 人 数		155人

第２章　大豊町における地域見守りについて

１．地域の現状と見守りについて

大豊町は 65 歳以上の高齢者が住民の 50%を超え、生活道路や冠婚葬祭など、共同体としての機能が急速に衰えるとされる「限界集落」[1] 地区を抱える。町全体の高齢化率も５割を超える全国で６番目に高い「限界自治体」でもある。

現在、大豊町は 12 の地域に区分され、全部で 85 の集落がある。その中で 65 歳以上の人口が 50%以上の集落が 55 集落あり、そのうち５集落は高齢化率が 80%以上である（平成 20 年４月１日）。今後更に、高齢化が進み消滅する集落自体が存在することが危惧され、高齢者の生活の支援が重要な課題である。

大豊町で生まれ、暮らしてきた高齢者や都会に出て退職後に帰ってきた高齢者が多く地域に対する愛着は深い。高齢者が高齢者を支える見守りについては、特別にシステムとして組織化はされていない。これまでの生活の中で培ってきた「お互いを気遣う」という相互扶助の文化が生かされている。しかし、地域の民生委員など「地域皆高齢者」という現実で、なり手が減少し、自治組織をどのように機能させていくかという課題もある。こうした現状のなか、大豊町は町民の具体的な生活支援のために「地域担当職員」を配置した。

２．見守り活動と地域担当職員の役割について

平成 17 年７月地域担当職員は住民課に組織された。役割は地域の「よろず相談」とその対応を中心とするなんでも屋である。広範囲な急傾斜地に散在する集落の生活に対応するために現在３名の職員が「大豊町総合ふれあいセンター」配置されている。

具体的な仕事内容は地域の巡回や「希望者の独居者にＩＰ電話を使用して、朝の安否確認」「役場関係の書類の自宅までの配達」「地域のもめ事の相談」など多方面にわたる。　地域担当職員は設置当初から１年ほどかけ、独居高齢者の個別訪問を実施した。こうした取り組みが「地域皆顔見知り」という活動の基礎になっていると考えられる。

（大豊町ホームページより引用）

図3　大豊町役場組織図

2．大豊町見守り活動と民生委員活動(図2)

大豊町における地域の見守りの中心的役割を果たすのは今回の調査対象者の民生委員であるが、住民やボランティアなどがお互いに気にかけ合って暮らしている。具体的な活動としては、地理的な条件で孤立を余儀なくされている高齢者の訪問等を実施している。

大豊町地域担当、大豊町社会福祉協議会、地域包括支援センターの職員は地域の状況や住民の生活状況をほぼ掌握している。

3．大豊町における孤独死と独居死について

これまで大豊町においては高齢者の孤独死の事例はない。孤独死を「看取る人が誰もいない状態での死」[1]や「従来から周囲との交流がなく、地域から(社会的に)孤立している状況の中で、誰にも看取られず一人で亡くなった場合を「孤独死」[2]と定義すれば、大豊町では地域から孤立して亡くなる高齢者はいない。普段は家族や近隣住民、見守り関係者などとの交流がある中で、突然の事故、疾病により一人で亡くなる「独居死」[3]の事例がある。

〈注〉

1)「限界集落」という用語については、必ずしも明確な定義が確立しているとはいえないが、代表的なものとしては、大野晃氏(高知大学名誉教授)による定義がある。「65歳以上の高齢者が集落人口の半数を超え、冠婚葬祭など社会的共同生活の維持が困難な状況に置かれている集落」:大野晃、2005年、「限界集落-その実態が問いかけるもの」
「限界集落」という表現には批判もある。地域で暮らしている住民の感情を考えれば当然であるが、本調査においては、中山間地帯に位置する厳しい立地条件から、人口の流出が続く現状を課題として取り組んでいる町の姿勢を受け、「限界集落」という表現を使用する。

2)「お年寄りがひとりぼっちで死なないように」:お年寄りの孤独死防止ハンドブック厚生労働問題研究会：平成16年3月

3)「孤独死」「孤独死」のとらえ方による。平成9年度　孤立死ゼロ・モデル事業報告書：神戸市保健福祉局高齢福祉介護保険課発行

第3章　調査結果

1．アンケート調査結果

1)研究目的

本章では、高齢者のセルフ・ネグレクトおよび孤独死を防ぐための地域見守り組織のありかたにつて検討を行うために、地域住民へのアンケート調査を行った。地域における見守り組織のありかたについて検討する際には、それぞれの地域の住民組織体制や地域性による違いをふまえることが必要である。本研究では、人口の過疎化・高齢化の進行が著しい地域で、見守り組織はないが日常的に住民が近隣同士で見守りを行い、地域の専門職が連携を取りながら問題解決への取り組が行われている大豊町を調査地とした。

2)研究方法

(1)対象者

大豊町民生委員 33 人

(2)方法

郵送法による自記式質問紙調査

(3)期間

平成 20 年 9 月

(4)調査内容

基本属性(性、年齢、小学校区、地域での役職・職種)地域での活動内容、見守り内容、孤立死防止に関する項目

(5)分析方法

基本属性別等に活動内容、見守り内容、孤立死防止に関する項目を比較、検討する。

3)倫理的配慮

本研究は甲南女子大学研究倫理委員会の承認を得て実施した。

研究対象者へ研究の主旨、匿名性、研究への参加は対象者の自由意志であり、不参加の場合に不利益を被るものではないこと、途中でいつでも参加中止が出来ること、面接内容に関するプライバシー保護を厳守すること、得られたデータは本研究目的以外に使用しないことを記載した調査依頼文を配布、説明し研究協力を依頼して同意を得て行った。

共同研究をおこなう、大豊町地域包括支援センターの協力を得、データの取り扱い、研究の進行について十分協議し、密接に連絡をとりながら進めた。

2. 結果

1)回収数(回収率)

回収数 33(回収率 75.0%)であった(図 1)。

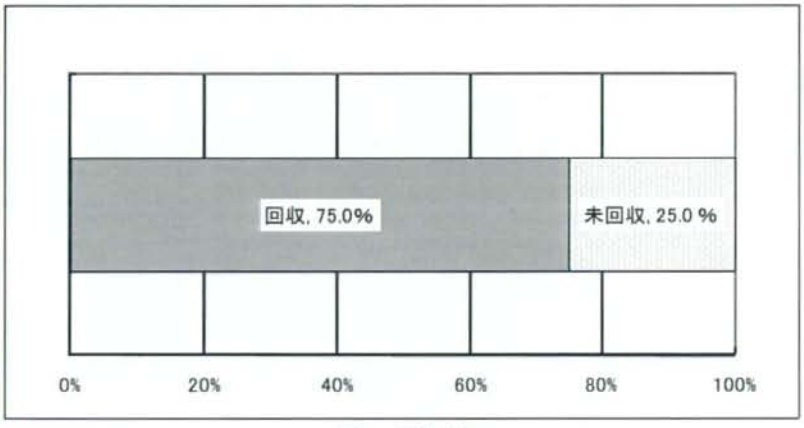

図 1 回収率

2) 基本属性

(1)性別

男性 19 人(57.6%)、女性 14 人(42.4%)であり、男性の方が多かった(表 1 、図 2)。

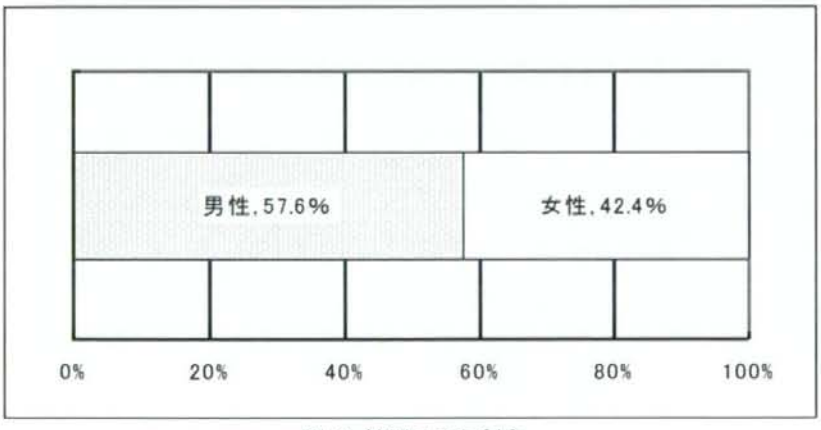

図 2 性別にみた割合

(2)年齢

60 歳代 13 人(39.4%) と最も多く、次いで 70 歳代 10 人(30.3%)であった。80 歳代は 0 人で、前期高齢者が多かった(表 1 、図 3)。

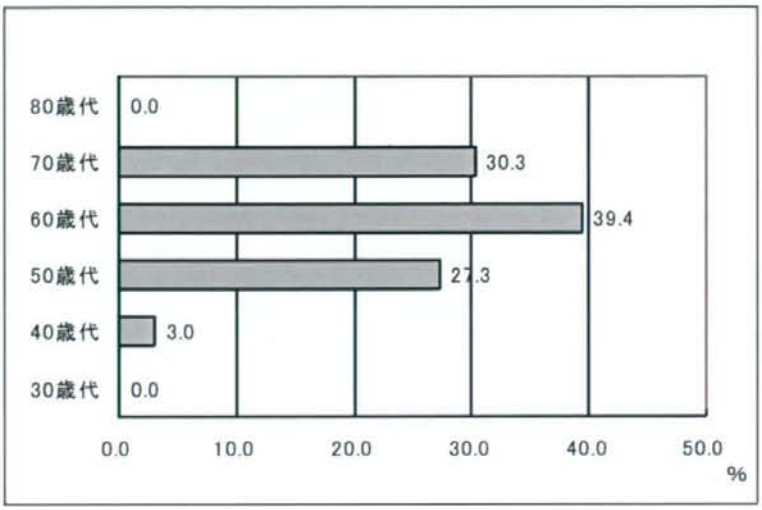

図 3 年代別にみた割合

表1. 性別、年齢階級別にみた割合

年齢階級	男性		女性		合計	
	人	%	人	%	人	%
30歳代	0	0.0	0	0.0	0	0.0
40歳代	1	3.0	0	0.0	1	3.0
50歳代	4	12.1	5	15.2	9	27.3
60歳代	7	21.2	6	18.2	13	39.4
70歳代	7	21.2	3	9.1	10	30.3
80歳代	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	**19**	**57.5**	**14**	**42.5**	**33**	**100**

(3)地域での役職

地域での役職別にみると(表２)、被験者全員が民生・児童委員であった。各役職の男性・女性の比率は図４の通りである。担当している世話役数は２つが最も多かった(表３)。

表２　全体における性別にみた役職

	男性		女性		合計	
	人	%	人	%	人	%
民生･児童委員	19	57.6	14	42.4	33	100.0
区長	2	6.1	2	6.1	4	12.1
自治会長	0	0.0	0	0.0	0	0.0
老人会･老人クラブ	1	3.0	1	3.0	2	6.1
婦人会	1	3.0	4	12.1	5	15.2
ヘルスメント	0	0.0	3	9.1	3	9.1
その他	3	9.1	2	6.1	5	15.2
	26	78.8	26	78.8	52	157.6

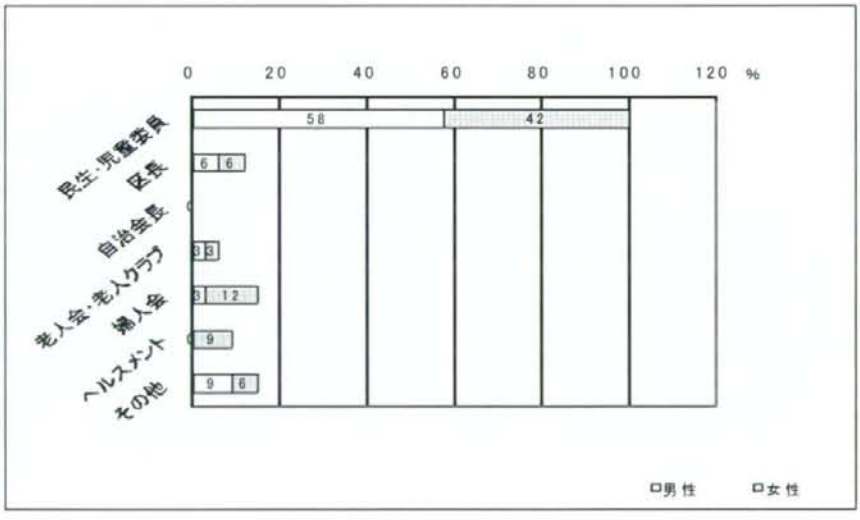

図 4　全体における性別にみた役職

表 3　担当している世話役数

世話役数	n	%
0	3	9.1
1	7	21.2
2	10	30.3
3	5	15.2
4	3	9.1
5	1	3.0
6	3	9.1
7	1	3.0
合計	33	100

(4)所属している校区

表4　所属している校区の割合

校区名	人数	%
久寿軒	1	3.0
天秤	2	6.1
大杉	4	12.1
川口	1	3.0
立川	1	3.0
穴内	2	6.1
大田口	5	15.2
豊永	3	9.1
大砂子	3	9.1
岩原	2	6.1
東豊永	4	12.1
西峰	5	15.2
合計	33	100

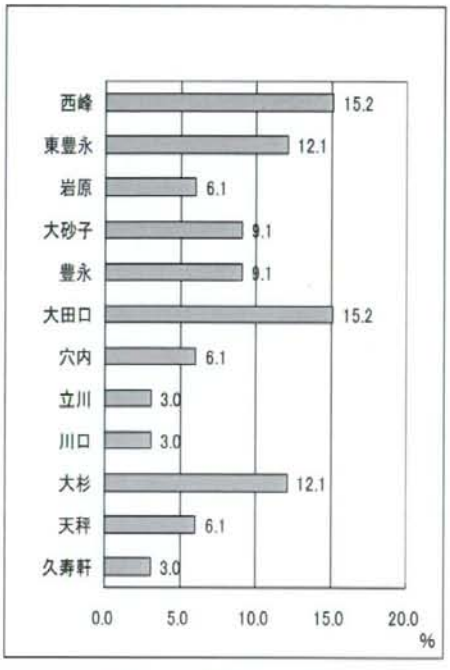

図 5 所属校区の割合

3)所属地域に関する認識

(1)地域の人との信頼関係の築きやすさ

9割の人が、地域の人と信頼関係を築きやすいと答えていた(表5)。

表5　信頼関係

	n	%
築きやすい	15	45.5
まあまあ築きやすい	14	42.4
どちらとも言えない	4	12.1
合計	33	100

(2)地域の人は他人の役に立とうと思っているか

約半数の被験者が地域の人が他人の役に立とうとしていると認識していた。

表6　地域の人は他人の役に立とうとしているか

	n	%
とてもそう思う	2	6.1
まあそう思う	16	48.5
どちらとも言えない	13	39.4
そう思わない	2	6.1
合計	33	100

(3)地域への愛着度

被験者のほとんどが地域への愛着を持っていた。

表7　地域への愛着度

	n	%
とてもある	15	45.5
まあある	17	51.5
どちらとも言えない	1	3.0
合計	33	100

(4)地域住民との付き合いの程度

地域住民との付き合いは、生活面で協力や立ち話程度が多かった。

表8　付き合いの程度

	n	%
生活面で協力	15	45.5
立ち話程度	14	42.4
挨拶程度	8	24.2
電話	10	30.3
合計	47	142

(5)付き合いのある人数

付き合いのある人数は、地域の人ほぼすべてが5割、地域の半分以上が4割を占めていた。

表9　付き合いのある人数

	n	%
地域の人ほぼすべて	16	48.5
地域の半分の人	14	42.4
地域のごく少数	2	6.1
無回答	1	3.0
合計	33	100

4)地域住民の民生委員の認知度と活動内容

(1)民生委員の認知の程度

民生委員は地域住民が民生委員の組織をどの程度認知していると思うか。をみると、「よく知っている」が6人(18%)、「知っている」が14人(43%)占めていたが、「あまり知らない」9人(27%)、「ほとんど知らない」2人(6%)と回答し、地域住民の約4分の1が民生委員の存在を認識していないと思っていた。

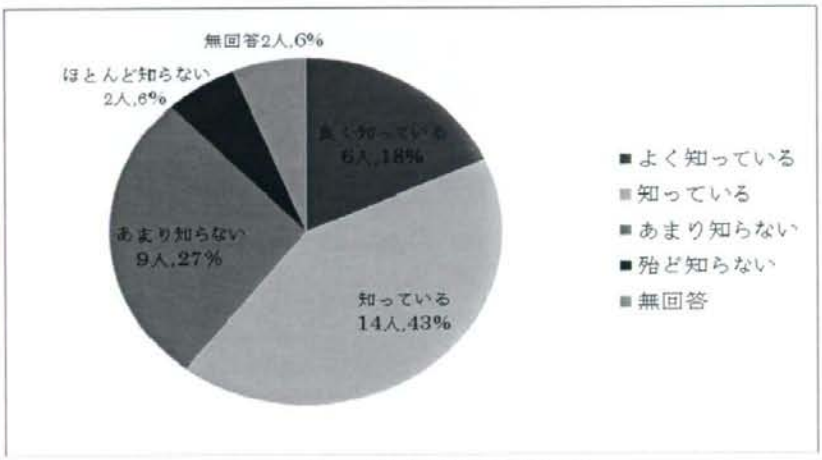

図 6 民生委員組織の知名度

(2)民生委員の活動と考える内容

民生委員の活動内容と思っているのは、見守り活動、相談活動、地域の高齢者の実態把握がほぼ同数を占め、多かった(表 10、11)。

表 10　民生委員の活動と考える内容

項目	人数(n=33)	%
見守り活動	27	84.4
相談活動	26	81.3
保健・医療・福祉の情報提供	16	50.0
地域の連携・協力体制づくり	17	53.1
交流の場の開催	9	28.1
勉強会開催	3	9.4
在宅介護支援センターや行政等の関係機関との連携	17	53.1
災害時の対応	16	50.0
地域の高齢者の実態把握	25	78.1
その他	2	6.3

(複数回答)

(3)民生委員として実行している活動内容

表 11　民生委員として実行している活動内容

項目	人数(n=33)	%
見守り活動	27	84.4
相談活動	25	78.1
保健・医療・福祉の情報提供	11	34.4
地域の連携・協力体制づくり	12	37.5
交流の場の開催	5	15.6
勉強会開催	2	6.3
在宅介護支援センターや行政等の関係機関との連携	13	40.6
災害時の対応	10	31.3
地域の高齢者の実態把握	22	68.8
その他	7	21.9

(複数回答)

(4)民生委員の活動についての意見

表 12　民生委員の活動についての意見

- 具体的な活動状況や方針について
  - ・自身の集落は近所協力して安心して暮らすよう努めている
  - ・独居老人に気をつける
  - ・民生委員が信頼・依存されて相互扶助で住民の力を強めることが重要
  - ・集落での売物の車が来た時に地域高齢者が出てくるので声かけして健康状態を知る
- 体制・活動上の問題について
  - ・行政の肩代わりや民生委員像の押し付けに違和感はある
  - ・便利屋扱いは困る　自身も活動の本質理解が不十分で友愛活動からの引きずりなのでしかたのない部分もあるが・・・
  - ・民生員活動は多岐にわたっているので一人で対応できていない
- 個人情報の問題について
  - ・以前に比べ個人情報など活動しにくい　変化している
- 見守り活動の程度について
  - ・民生委員活動に求めるものが広がってきているが、困っている人の相談にのる基本姿勢が大切と思う
  - ・そっと見守る　台風時に電話する　地域外でも必要時手伝いに行く
  - ・民生委員の仕事内容は不明だが、病院の送迎や電話訪問など出来ることをしている

(5)民生委員の活動についての住民の認識

表 13　民生委員の活動についての住民の認識

	n	%
感謝	6	20.0
世話好き	3	10.0
余計なこと	2	6.7
無関心	3	10.0
その他	5	16.7

（複数回答）

表 14　その他（自由回答）

- ・苦情がないので感謝されていると思う
- ・状況に応じて
- ・何かの時は世話をして欲しいと思う
- ・人の考え方がいろいろで分からない

5)見守り活動

(1)見守り活動の対象者の有無

現在見守り対象者の有無をみると(図7)、「いる」が23人(70%)で、「いない」が8人(24%)であった。

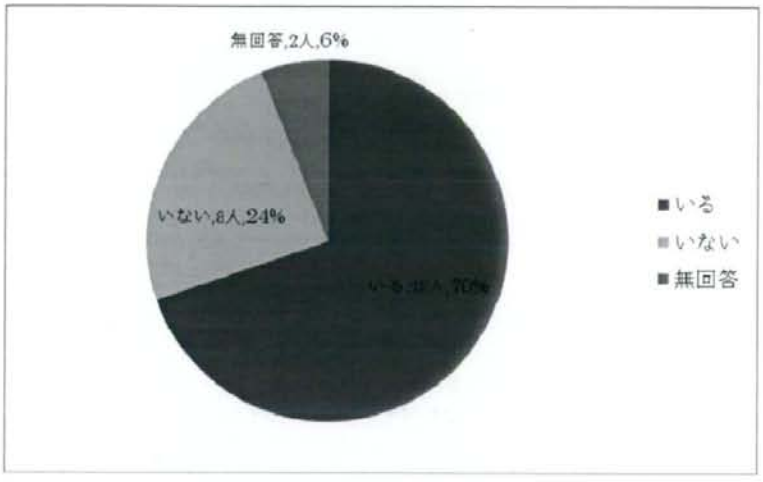

図 7 見守り活動対象者の有無

現在の見守り活動対象者が「いる」と答えた者を、性別でみると(表15)、男性は70.6%、女性は78.6%と、女性の方が男性に比べ、見守り対象のいる割合が多かった。

表 15 性別にみた見守り活動の対象者の有無

項目	男性			女性			合計	
	人数	性別%	項目別%	人数	性別%	項目別%	人数	項目別%
いる	12	70.6	52.2	11	78.6	47.8	23	100.0
いない	5	29.4	62.5	3	21.4	37.5	8	100.0
合計	17	100	114.7	14	100	85.3	31	200

現在の見守り活動対象者が「いる」と答えた者で、役職別みると(表 16、図 8)、民生・児童福祉委員が 23 人(74.2%)と見守り対象者のいる割合が多かった。

表 16　役職別に見た見守り活動対象者の割合

役職名	人数	%
民生・児童委員	23	74.2
区長	2	6.5
自治会長	0	0.0
老人会・老人クラブ	1	3.2
婦人会	3	9.7
ヘルスメント	2	6.5
その他	4	12.9
合計	35	113

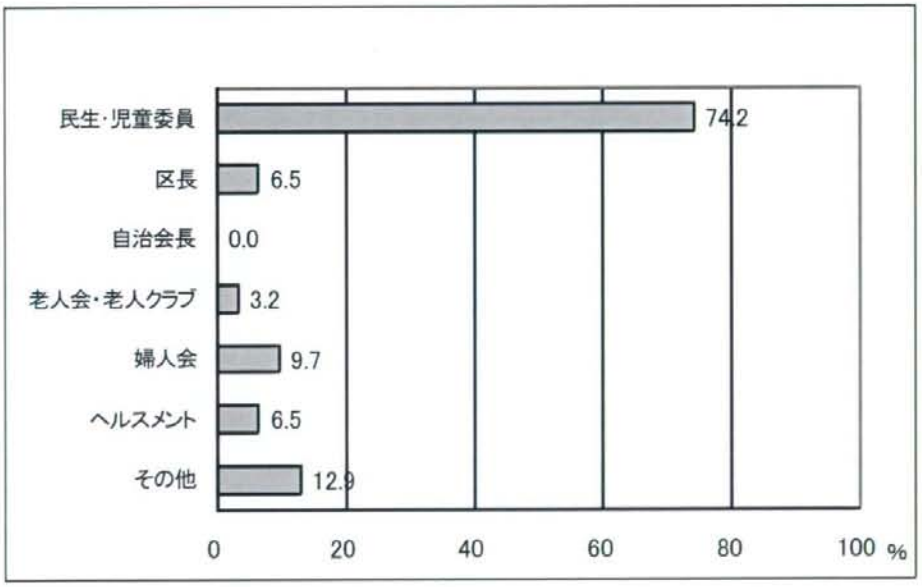

図 8　役職別にみた見守り活動対象者の割合

所属校区別にみると表 17 のとおりである。

表 17 所属校区別にみた現在の見守り活動対象者の割合

所属校区名	人数	所属校区内の%	全体の %
久寿軒	1	100.0	4.3
天秤	1	50.0	4.3
大杉	2	66.7	8.7
川口	0	0.0	0.0
立川	1	100.0	4.3
穴内	0	0.0	0.0
大田口	4	80.0	17.4
豊永	3	100.0	13.0
大砂子	3	100.0	13.0
岩原	2	100.0	8.7
東豊永	3	75.0	13.0
西峰	3	60.0	13.0
合計	23	831.7	100

(2)見守り活動の対象者

①世帯

見守り活動の対象者を世帯別にみると(表 18、図 9)、「一人暮らし」が 21 人(77.8%)、「高齢者のみの世帯」が 14 人(51.9%)おり、うち独居と高齢者のみ世帯が主な見守り対象である。

表 18 見守りしている対象者の世帯

世帯項目	人数	%
一人暮らし	21	77.8
高齢者のみの世帯	14	51.9
同居家族はいるが昼間一人	1	3.7
同居家族はいるが昼間高齢者のみの世帯	2	7.4
心身状態が良好でない同居家族のいる世帯	5	18.5
その他	2	7.4

(複数回答)

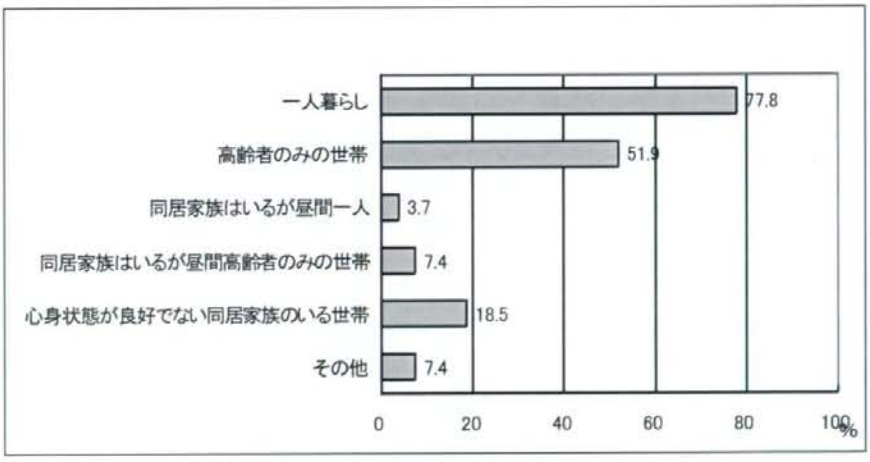

図 9 見守りしている対象者の世帯(複数回答)